未来社会を切り拓く児童生徒の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの確立(2年次)

～「わかる」「できる」「たのしい」があふれる学校づくり～

今年度の研究

カリキュラムの充実

・単元指導計画の活用
・領域教科合わせた学習の年間指導計画の整理
・年間指導計画の書式の見直し

指導の改善(自立活動)

・学年内における自立活動の目標共有
・自立活動に関する実践
・実践した内容を基に評価

前期研究まとめ

小学部2年生

自立活動の区分と教科等:コミュニケーション【国語/算数】

取り組んだ指導内容と成果

すごろくゲームを題材に、出た目の数だけマスを進み、止まったマスのカードに書かれた問題に取り組んだ。カードには、日常場面のイラストに合わせて動作や言葉を模倣する内容を取り入れた。
繰り返し活動する中で、動作や言葉を自発的に模倣し、自信をもって発声しようとする姿がみられた。

小学部4年生

自立活動の区分と教科等:コミュニケーション【音楽】

取り組んだ指導内容と成果

カードやICT機器(DropTap、Canva、Dropkit)を活用し、身体の動きや楽器の特性に応じた楽器の選択、必要な支援の要求、活動の感想や振り返りを行った。
身体の動きに応じた活動設定や視覚的な支援により、意欲的に活動に参加し、自分で考えて動こうとする姿が見られた。

小学部6年生

自立活動の区分と教科等:心理的な安定、コミュニケーション【国語/算数】

取り組んだ指導内容と成果

絵本の読み聞かせを通して、好きな場面を選び、発表する活動に取り組んだ。
絵本の内容に合わせて具体物を用いたことで内容理解が深まり、離席することなく集中して学習に取り組むことができた。また、ジェスチャー(児童の得意なこと)での発表だったので、自信をもって取り組めた。

中学部2年生

自立活動の区分と教科等:身体の動き【作業】

取り組んだ指導内容と成果

シュレッダーや紙ちぎりに1人で取り組めるよう、環境設定や教材の工夫を行なった。シュレッダーでは紙が吸い込まれて大きな音が出ることを活動のゴールとして捉え、紙ちぎりでは、引っ張った際に伝わる感覚が次の活動への意欲につながった。

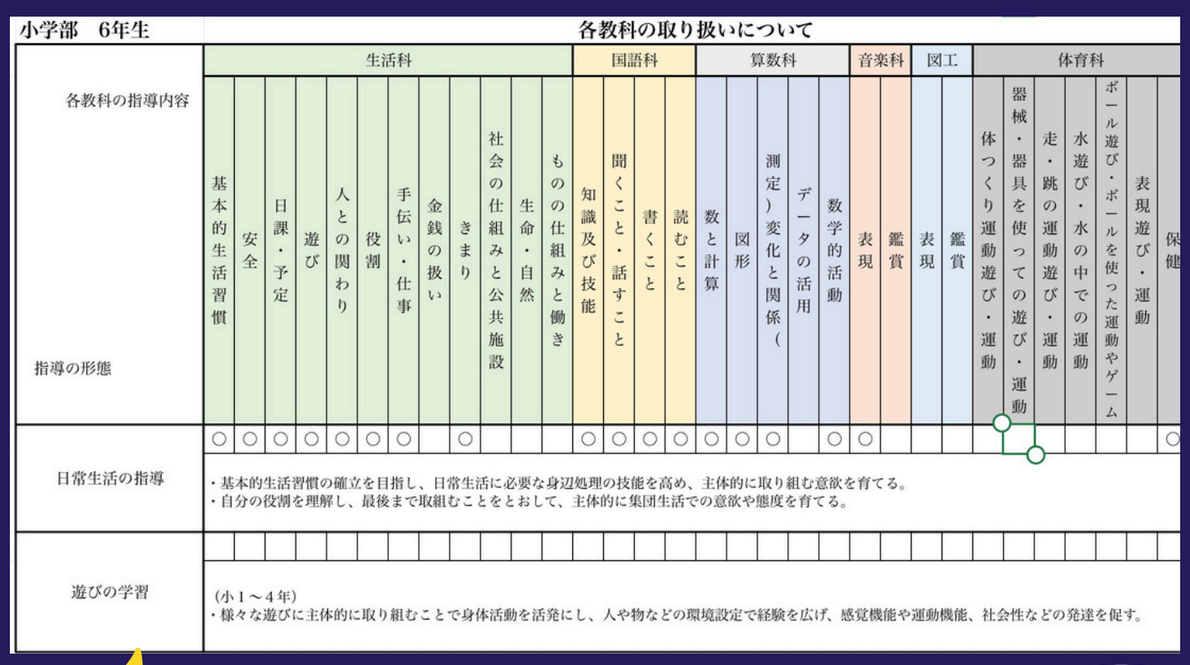
訪問学級

自立活動の区分と教科等:身体の動き、コミュニケーション【自立活動】

取り組んだ指導内容と成果

タブレット端末を使った塗り絵に取り組み、教師が待つことで自分から活動を始めることができた。視線や上肢が動かしやすいよう高さや配置を工夫することで、自分の動きを調整する姿や、やりたいという思いを表現することができた。





小学部　6年生　各教科の取り扱いについて

各教科の指導内容 / 指導の形態	生活科												国語科				算数科					音楽科		図工		体育科							
	基本的生活習慣	安全	日課・予定	遊び	人との関わり	役割	手伝い・仕事	金銭の扱い	きまり	社会の仕組みと公共施設	生命・自然	ものの仕組みと働き	知識及び技能	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	数と計算	図形	測定）変化と関係（	データの活用	数学的活動	表現	鑑賞	表現	鑑賞	体つくり運動遊び・運動	器械・器具を使っての遊び・運動	走・跳の運動遊び・運動	水遊び・水の中での運動	ボール遊び・ボールを使った運動やゲーム	表現遊び・運動	保健
	○	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○	○	○	○		○	○										○
日常生活の指導	・基本的生活習慣の確立を目指し、日常生活に必要な身辺処理の技能を高め、主体的に取り組む意欲を育てる。 ・自分の役割を理解し、最後まで取組むことをとおして、主体的に集団生活での意欲や態度を育てる。																															
遊びの学習	(小１～４年) ・様々な遊びに主体的に取り組むことで身体活動を活発にし、人や物などの環境設定で経験を広げ、感覚機能や運動機能、社会性などの発達を促す。																															

カリキュラムの充実

各教科関連チェックシートを活用し、学習指導要領の視点から、日常生活や遊び、作業の学習内容について、今年度の年間指導計画を見直した。各単元で扱う学習内容と関連する教科の項目を確認し、該当する項目にチェックを入れることで、教科との関連性を整理した。